

ピロリ菌検査について

胃がんの原因とされるピロリ菌の除菌が健康保険でできるようになりました。保険適応のためにはまず胃内視鏡を受ける必要があります。胃内視鏡後の血液検査などでピロリ菌が確認されれば、健康保険を使って除菌ができます。除菌は三種類のお薬を7日間飲んで行い、70%から90%の確率でピロリ除菌が成功します。ピロリ菌は人類最大の感染症と言われ、全人類の50%が感染していると考えられています。50才以上の日本人は6割以上がピロリ菌に感染しています。ピロリ菌から出るアンモニアは慢性胃炎を引き起こします。軽度の慢性胃炎からは未分化型癌が、さらに進んだ萎縮性胃炎からは高分化型癌が発生します。しかし胃がんはピロリ菌がいるだけでは発症せず、環境要因や遺伝要因が加わって初めて発症します。また胃がんが発症するのはピロリ菌感染者の約3%弱にすぎません。一方胃がんで亡くなる方の7割から8割の方はピロリ菌に感染しており、ピロリ菌に感染していない方は10年の追跡でも胃がんが発生しなかったという事実もあります。

厚生労働省によると胃がんにかかる人は年間約25万人で、そのうち約5万人が亡くなります。そしてこの10年胃がんでなくなる人が5万人から減っていないのも事実です。バリウム検診だけで胃がんを撲滅するのは困難かも知れませんが、そんなこともあり酒田市でもピロリ菌のリスク検診(ABC検診)が胃がん検診に追加されました。今後の胃がん検診は胃内視鏡検査とピロリ菌のリスク検診の二本立てになっていくと思われます。

ではピロリ菌抗体検査やペプシノーゲン検査で陰性であればもう胃がんの心配はないのでしょうか。そこには1つおとし穴があります。ABC検診でピロリ菌はない判定された人でもその後を詳しく調べると、胃ガンになる人がいます。その理由はピロリ菌がいるのに、いないと誤判定してしまう偽陰性が10%前後存在するからです。またピロリ抗体が陰性でピロリ菌がなく、胃炎もないのに発生する胃底腺型胃がんも少数ながら存在するからです。ですからABC検診でB、C、D判定された人は毎年の検査はもちろんですが、A判定の人、抗体陰性の人、一度は胃カメラを受けることが大切です。内視鏡検査では萎縮性胃炎がないかを内視鏡医にしっかり観察してもらいましょう。ピロリ菌感染者はおよそ5000万人、その約0.5%に胃ガン発生しています。ピロリ菌を除菌すると胃がんは3分の1に減るといわれています。胃がんは早期発見の時代から、予防の時代に変ってきました。